



### 1 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペットにつまずいたり、公園で石段につまずいて転んだり。子どもは足元を見ないで突進してくるので、ちょっとした段差にもつまずき転倒します。ある程度高さのある段差は認識できますが、ちょっとした段差は逆に危ないので注意が必要です。

子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。部屋の中は整理整頓しておく。

### 3 子どもの位置を確認してからドアを開けていますか。

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子どもにぶつかったり、ドアや引き戸が透明ガラスだと閉まっているのがわからなくて突進してぶつかることがあります。シールを貼ったり、ぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止しましょう。



子どもの位置を確認してからドアを開閉する。

### 5 子どもの腕を強く引っ張ることがありますか。

おもちゃを交換した後、子どもを起こそうとして腕を勢いよく引っ張ったので肩が脱臼してしまったり、転びそうになって片腕を急に引き上げたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいて引っ張ったりしたときに起こります。脱臼は癖になりやすいので、急に腕を引いたり、強くなり過ぎないようにするよう注意が必要です。

子どもの腕を引くときは強くなり過ぎないようにする。

### 7 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。また、お母さんが使う化粧品にこのほか興味関心があるので、洗面台や化粧台の上は無造作に置いておかないようにしましょう。

薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。薬入れにお菓子の空き缶などを使わない。化粧品や洗剤は棚の中に保管し、扉は開けられないようにしておく。

### 2 階段を上り下りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつないでいますか。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きます。最初は後ろ向きにハイハイをして下りるようにし、歩いて下りられるようになったら手を取ったり、子どもの横か下側を歩きます。また、大人の目が離れることがあっても安全のように階段の上下階には柵をつけ、閉め忘れないようにすることで、階段からの転落事故を防ぐことができます。

階段の上り下りは、大人がいつも子どもの下側を歩くか手をつなく。階段の上下には柵をつけ、閉め忘れのないようにする。

### 4 子どもがペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回ることがありますか。

口に物を入れたまま走ったり歩き回っていると、壁にぶつかったり転んだときに口の中を切ってしまったり、喉を突いたりする危険があります。手に持っていれば、転んだとき突き刺してしまいます。



ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえたまま走り回らせない。

### 6 ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱い物に触れないようにしていますか。

食事の準備をしている台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。コンロから下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に触ってしまったり、足元にいる子どもに熱いスープや油などがかかると、ひどいやけどを負わせてしまいます。

ストーブやヒーターなどは安全柵で囲い使用する。食事の準備をしているときは台所に子どもを入れないようにする。

### 8 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などをおもしろ半分て鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは、長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。



子どもが鼻や耳に入れて遊ばないように注意する。